

令和 7 年 4 月 1 日
大学院事務部

令和 6 年度学位授与状況について（概況）

令和 6 年度における学位授与数は、修士課程は修了判定対象者 102 名(令和 6 年 9 月修了者の修士課程 2 名を含む)中 87 名(85.29%)、博士後期課程は 24 名中 9 名(37.50%)であった。そのうち標準修業年限以内での修了に関しては、修士課程 87 名中 76 名(87.36%)、博士後期課程 7 名中 0 名(0.00%)であった。なお、学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)第 104 条第 4 項の規定による博士の学位の授与状況(論文博士の授与状況)について、令和 6 年度においては 0 名であった。

また、標準修業年限以内で修了していない者の割合は、修士課程においては 2 年次在籍者 91 名中 11 名(12.09%)、博士後期課程においては 3 年次在籍者 7 名中 7 名(100.00%)となっている。

令和 6 年度修了者のうち学位取得に要した年数ごとの修了者割合については、修士課程は、1 年 1.15%、2 年 86.21%、2.5 年 2.30%、3 年 10.34%、4 年 0.00%となっている。また、博士後期課程は、3 年 0.00%、4 年 33.33%、5 年 22.22%、6 年 44.44%となっている。

令和 6 年度修了者のうち学位取得に要した平均年数は、修士課程 2.10 年、博士後期課程 5.11 年となっている。

令和 6 年度において標準修業年限以内で修了せずに退学した者の割合は、修士課程においては、1・2 年次の在籍者数 175 名のうち 1 名(0.57%)となっている。博士後期課程においては、1～3 年次の在籍者数 31 名のうち 1 名(3.23%)となっており、単位取得退学に関しては、3～6 年次の在籍者数 34 名中 3 名(8.82%)となっている。

また、令和 6 年度修了者における修了後の進路状況については、就職 65 名(67.71%)、進学 5 名(5.21%)、就職活動継続中 15 名(15.63%)、その他[帰国・未定・未届等]11 名(11.46%)となっている。

令和 6 年度における標準修業年限以内で修了していない者の修了していない原因については、大きく分けて、「論文提出しない」および「論文取り下げ」がある。論文提出しない理由としては、「修士論文の内容を充実させるため」、「当初から 3 年で完成する予定のため」、「修士論文執筆に必要な資料がそろわず考察が不十分なため」、「研究継続のため」、「調査、分析過程のため」、「論文投稿を優先させるため」、「研究テーマ変更のため」、「データ収集のため」、「研究科所定の提出要件を満たしていないため」などが挙げられる。また、論文取り下げの理由としては、「修士論文の精度をより高めるため」、「収集したデータを再検討するため」、「学内の学期末修了制度を利用するため」、「研究継続のため」、「新たな知見を得て内容を拡大させるため」などが挙げられる。

以 上